

宗教・教団超えて集う



4日間の「96おかやま国際貢献NGOサミット」を終え、記者会見する国内外の参加者たち＝岡山市の岡山国際交流センターで

国際貢献NGOサミット閉幕

岡山市を中心に開かれた「96おかやま国際貢献NGOサミット」が二十六日、四日間の日程を終えた。期間中に、宗教、教団の違いを超えて人道援助の協力態勢の確立を目指す「人道援助宗教NGOネットワーク」が設立され、県内の小、中、高校七校が南アフリカやモンゴルなどの学校と姉妹校縁組を結んだ。また、広島、沖縄両県と協力して「00人道援助世界都市フォーラム」を開くことなどが今後の活動案として示された。

南アフリカやモンゴル…と小・中・高7校が縁組

主催した「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」の黒住宗道事務局長は「基調講演や地域交流会を中心に、延べ約千人がかかわった。NGOは難しいものではない、といふことを岡山の人に呼び掛けることができた」と成果を述べた。

三回続けて出席したスリランカのシロガマ・ウイマラさんは「人道援助宗教NGOネットワークの結成で、関係者の間にひとつのパイプが出来た」と評価した。

また、姉妹校縁組について三宅正勝・国際姉妹校推進委員長は「これまでの姉妹校縁組は欧米の学校に向いていた。アジア、アフリカ諸国と結んだ今回の縁組から、物質ではなく、精神的なものを得られるだろう。将来は子どもサミットも開きたい」と話した。